

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆにこーんみゅうず(児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	2025年2月3日 ～ 2025年2月14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2025年2月3日 ～ 2025年2月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽を通して感性・社会性・心身の発達を促し、言葉や人とのかわり、情緒の安定、場面の切り替えや運動機能の向上に向けて、音楽を構造的かつ計画的に使用する小集団の療育をおこなっていること。	リトミック・歌唱・ダンス等を通して、言葉や人との関わり表現力・感受性の向上と心身の発達支援をテーマに掲げ、様々なニーズに合うよう、10のプログラムで構成された音楽療育を行っている。ひとつひとつのプログラムには意図を持たせ、また、子どもたちが飽きずにかつ楽しく活動ができるように、季節感を取り入れながら週ごとや月ごとに歌や内容を変えるよう工夫している。	さらにこども達の語彙力をたかめられるように視覚的な工夫の充実などで、言葉の意味を理解できる支援を強化し、こども達に知っている言葉を使いこなせる「伝える力」を高めることを目指します。
2	こどもたちの未来を見据え、こどもたちが集団の中で生き抜く力を身につけることに視点を置いた療育をこころがけていること。	集団療育中や活動の中で、必要に応じてSST(ソーシャルスキルトレーニング)を取り入れ、常にこども達の未来に必要なコミュニケーション能力を高める視点を持ちながら支援をしている。「待つ力」「聞く力」を高めていただけるよう意識した声かけや療育内容を展開している。	引き続き、ひとりひとりの特性を理解し、必要な「未来に生き抜く力」を高める支援の充実を図る。
3	職員がストレングス視点をもって支援をしていること。	こども達の可能性を信じ、ひとりひとりの「できないこと」ばかりに目を向けるのではなく、「できること」「得意なこと」に目を向け、その強み(ストレングス)を伸ばすことに意識を持った支援を心がけている。また、職員間の連携を密にし、共通認識で支援ができるよう取り組んでいる。	引き続き、全職員がこども達ひとりひとりのストレングスを見極める洞察力を向上させることができるよう取り組む。また、その力をどう伸ばしていけばよいのかを事業所全体で考え、支援する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が少ないこと	日々の療育が枠として決められているので、交流する機会がなかなか作れない。地域の行事に出店したり地域のボランティアさんの受け入れはしているが、事業所に招くなどして、こども達が地域のこどもと一緒に活動する機会を設けようと考えてもなかなか交流の提供は時間や場所の問題からも現時点では難しい。また、ほとんどが併行通園である。	系列の保育園との合同行事を増やしたり、クリスマス会を大きな外部会場を借りて開催するなどの工夫。また、土曜開所の季節感ある催しの際に、地域を巻き込んだ開催ができないかの検討。
2	保護者同士の交流機会の少なさ	保護者参加の研修会を昨年一度のみ、開催したが、参加者が少なく、開催曜日の設定などの難しさを感じている。また、交流の機会を求めるか否かの保護者様の声を確認する機会も、もてていなかった。	現在、勉強会と、保護者交流会を兼ねた会の開催に向けて準備中。職員が外部研修に行き、資料作りにも取り組んでいる。保護者様のニーズに応じた開催方法の検討が必要。
3	安全計画等に基づく取り組み内容の保護者様への周知	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練等を行っているが、保護者様にお伝えする機会を持っていない。避難訓練に参加するこどもの保護者様には事前にお知らせしているが、曜日により、利用する子どもが違うために、訓練も一度も周知できていない方もいる。	2025年度より、「みゅうず通信」を発行することになったため、音楽療育のプログラム内容と共に、みゅうずが策定している安全計画や、各避難訓練なども掲載し、周知できるよう努める。